

【新型コロナウイルスの今後の見込みと財政運営について】

(一問目)

市議案第48号令和2年度豊中市一般会計補正予算第2号について伺います。

本補正予算は、新型コロナウイルス感染拡大と活動自粛の長期化で困難を増す市民生活に対し、緊急を要する支援策を実施する目的で提案されたと伺っています。補正額は合計で約12億3千万円、財源は全て一般財源で、財政調整基金を活用されるとのことですが、現在の財政調整基金の積立額、今回の補正予算成立後の残額を教えてください。そもそも、市長は、新型コロナウイルスの終息時期をどのように考えておられるのか、いつ頃まで市民生活に影響を及ぼし続ける可能性があるかと想定されておられるのでしょうか。市民生活や社会経済への影響が長引くにつれて、市財政への影響も大きくなり、財政運営の見直しも必要になってくるのではないかと思います。見解をあわせてお聞かせ下さい。新型コロナウイルスの終息時期によって市独自で実施すべき施策の種類も規模も異なり、財政調整基金だけで、賄いきれるのか懸念されますが、財務部として、どのように考えておられるのか、見解をお聞かせ下さい。

<答弁>

財政調整基金の現在の残高は、4月10日付市長専決に伴う補正予算に充てた後で、56億1857万5千円。今回の補正予算をご承認いただいた場合、43億8572万6千円でございます。

次に終息時期につきましては、緊急事態の介助とは別に、コロナウイルス感染症自体の完全な終息にはワクチン開発と普及が必要と言われている状況から、年度を超えることを想定しております。さらに今回、世界全体が社会経済に大きなダメージを被っております。リーマンショック後の状況から類推しますと、年単位で市民生活や地域経済への影響が続く可能性があると考えております。

影響が続く局面におきましては、リーマンショック後以上の厳しい状況も予測されておりますことから、税収や地方財政措置の動向把握を行いながら、中長期的な財政運営の方向性を検討し、そこからたどって今必要な取組みを機敏に考えてまいります。

市独自の施策にかかる財源につきましては、財政調整基金の残高、令和元年度の決算状況や国や府からの財源を見ながら、今年度の適切な時期において今後の事業の改めでの優先順位付けなどを行いつつ、確保を行ってまいりたいと考えております。

(二問目)

「今年度の適切な時期において、今後の事業の改めでの優先順位付けなどを行いつつ、財源を確保していきたい」とのご答弁もありましたが、先の見通せない新型コロナウイルスの感染状況を考え、様々な形で財源確保策を講じる必要があると考えますが、現時点において、市として検討されていることがあれば教えてください。また、市として

新型コロナウイルス感染症対策基金を創設し、市民をはじめ、様々な方からの善意の受け皿とすることは検討出来ないかと考えますが、併せて見解をお聞かせ下さい。

<答弁>

財源確保策と致しましては、特別法の制定などが無い限りは、中期財政計画に記載しております取組みをより強化することに帰すると考えております。

また、市民の皆さんの共助による財源確保の観点につきましては、多くの方に共感を持って頂けるような市民生活・地域経済への支援策を行うことで、寄附やクラウドファンディングを募ることを検討してまいります。その際の受け皿と共に、財源管理の一手法として、基金の設置につきましても検討しているところでございます。